

インタビュー

創業以来、一貫して顧客ニーズに合わせた
システムをサービス型で提供するエックスネット

NTTデータは資本業務提携契約の締結、TOBを経て2009年3月エックスネットをグループ会社として迎えた。エックスネットは、創業以来、「サービス」として業務システムを提供する「アプリケーション・アウトソーシング事業（商品名XNETサービス）」という時代を先取りしたビジネスを積極的に推進している。ここでは、同社のビジネス展開やXNETサービスの概要などについて、鈴木 邦生代表取締役社長にうかがった。

会社 創業以来一つの商品 「XNETサービス」のみを推進

—はじめに、御社の概要及びビジネス状況からお聞かせください……。

鈴木 私どもは1991年に設立し、2000年6月にナスダック・ジャパン開設時の上場6社の内の1社として上場、2003年2月に東証2部、2004年3月に東証1部に上場しました。今期で19年目を迎え、2009年3月末で社員数約135名となっています。

創業以来「XNETサービス」という一つの商品のみを提供し、順調に売上拡大を実現してきました。当社は主に機関投資家が業務で使用するシステムを提供する専門家集団です。創業以来独立系の会社として事業を行ってまいりましたが、現状の経営課題を解決し、更なる事業の発展を目指すために、NTTデータとの間で資本業務提携契約を締結し、公開買付けを経てNTTデータのグループ会社となりました。

—サービス型に特化した「XNETサービス」とは……。

鈴木 当社がアプリケーション・アウトソーシング事業と呼ぶXNETサービスとは、お客様にサービス型でシステムを提供するビジネスです。XNETサービスは、主に機関投資家向けに提供し、①資産運用管理のミドル業務（ポートフォリオマネジメント）、②勘定仕訳、入出金管理、現物管理といったバックオフィス業務、③投資家と証券会社間の発注、出来データの交換や機関投資家のトレーディング業務をサポートするフロント業務、といったサービスを持った資金証券ソリューションで、「資産運用管理業務を全面的

「エックスネット」
の事業展開を語る
(株)エックスネット
代表取締役社長
鈴木 邦生氏



にサポートする」サービスです（図1参照）。

広く言えばITを提供する企業ですが、NTTデータのように、Slerとしてシステムの要件定義から設計、開発、運用といったサービスをトータルで提供するのではなく、お客様の業務に近いアプリケーションの提供に特化し、営業基盤を拡大してまいりました。そのためXNETサービスを利用するサーバ、ストレージやネットワーク機器などのシステムは、お客様に調達していただいたり、場合によってはNTTデータなどのSlerがSIを行い、XNETサービスを利用していただくという形態です。本サービスは、最近注目されているSaaS（Software as a Service）という形態に近いサービス提供の方法です。当社はこのように多くのメリットを持つ「サービス型」に特化したビジネスを、19年前に創業者が思考し、これまでに多くのお客様へ提供してきた豊富な実績を持っています。

月々のサービス料のみで利用できる 「XNETサービス」

—「XNETサービス」の最大の特長は低価格で利用できること……。

鈴木 企業がシステムを導入する方法には、Slerなどに発注する「自社開発型」、プログラムを購入して使う「パッケ

ージ型」、月々のサービス料で提供する「サービス型」の三つのパターンに分けられます。この三つのパターンのコンセプトを比較すると、自社開発型はコストと失敗のリスクを1社単独で負担することになります。パッケージ型は、売られているものを利用する分には安価ですが、業務に合わせて変更・追加をするには費用が高額となります。サービス型は、追加・変更を含めて月額定額でシステムを提供し、お客様と一緒により良いシステムを構築していくという考えによるものです。その最大の特長は、初期開発費用が不要で、月々のサービス利用料以外にお客様の負担がないという点にあります。また、機能追加要件が発生した際でもシステムの追加開発費用も不要ですし、圧倒的に短期間で開発を完了することも可能となります。

システムは「資産として持つ時代」より「利用する時代」へ

—「XNETサービス」は制度・税制・業務の変更に伴う変更にも追加コストが発生しない……。

鈴木 資産運用分野では、頻りに制度や税制などの変更が発生します。また、新商品の登場などによる機能追加への対応や業務の変更も頻りに発生します。これらの変更に対してもXNETサービスが対応しますので、お客様はシステム変更、機能追加に伴う追加投資は発生しません。最近のサービス導入後の改良・変更の具体例としては、株券電子化に伴う端株整理のための株式分割、株式等の5日目決済及び機関売買停止の廃止への対応や、金融危機に伴う有価証券の保有目的の変更への対応などが挙げられます。当社

は、ビジネス環境の変化に迅速に対応するというポリシーで創業時からXNETサービスを提供してまいりました。さらに、資産運用管理分野であれば、どんな商品でも同じプラットフォームで扱うことができるサービスを創業時から目指しています。業務で使うシステムは資産として持つ時代から利用する時代に世の中はどんどん動いていると考えています。

ノウハウの結晶

—「XNETサービス」はお客様のノウハウの結晶……。

鈴木 XNETサービスは、当社の資産をお客様全体でシェアして利用していただいていますので、低価格でサービスを提供できます。さらに、多くのお客様が使っていただいたノウハウがXNETサービスには、詰め込まれています。ナレッジ・シェアリングという考え方であると思っています。

サービスによるシステム提供の優位性をさらに推進。

—サービスによるシステム提供が導入期間、導入コスト面で優位であることを、まだ利用していない潜在顧客層に浸透させるチャンス……。

鈴木 当社の進める「サービス」として業務システムを提供する「アプリケーション・アウトソーシング事業（XNETサービス）」という時代を先取りした考えは、逆に私どもに顧客基盤拡大のチャンスを与えてくれるものと考えています。先の見えない時こそ、ビジネスの変化に乗り遅れては明日の発展から取り残されていきます。当社はお客様のビジネスをサポートすることが使命であり、NTTデータという最強のパートナーの支援をいただきつつ、お客様とコラボレーションしながら「ノウハウの共有」を引き続き推進してまいります。

—本日は有り難うございました。

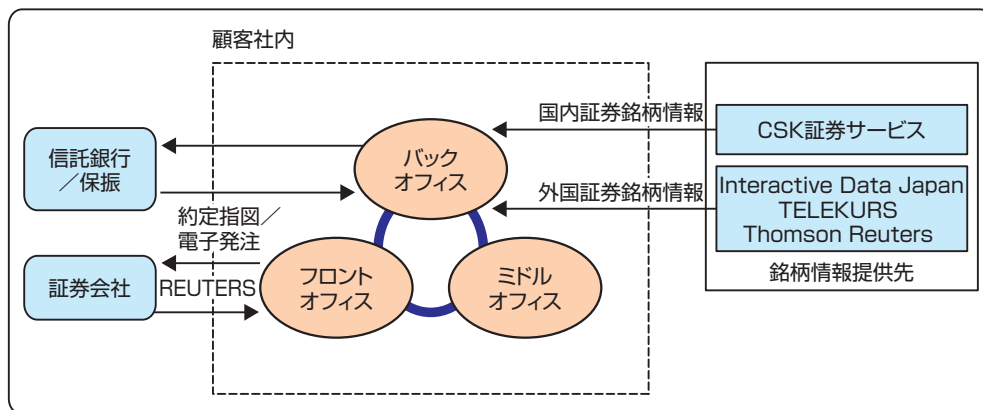


図1 「XNETサービス」の全体イメージ